

テーマ展「彦根藩御用絵師 佐竹永海－写山楼から愛雪楼へ－」 展示作品リスト

	名称	作者(差出)	数量	品質形状	法量(cm)	制作年代	年齢	所蔵者および寄贈者	備考	展示期間	
										～6/29	6/30～
1 彦根藩御用絵師 - 藩主直亮と永海 -											
1	彦根藩士卒戸籍簿		1冊	紙本墨書	縦27.7cm 横20.3cm	明治4年 1871年	69歳	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	重要文化財		
2	井伊直亮画像	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦92.6cm 横40.9cm	嘉永4年 1851年 以前	49歳以前	清凉寺	彦根市指定文化財		
3	井伊直亮画像下絵	佐竹永海	1枚	紙本淡彩	縦53.3cm 横47.4cm	嘉永3年 1850年 以前	48歳以前	個人 (彦根藩大久保家文書)			
4	摺針暁景図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦45.6cm 横75.9cm	嘉永元年11月 1848年	46歳	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)			
5	舞楽面図	佐竹永海	4枚のうち 2枚	紙本着色	縦40.0cm 横27.8cm ほか	江戸時代後期		彦根城博物館 (井伊家伝来資料)			
6	指紙略記		2冊	紙本墨書	各 縦14.2cm 横20.2cm	天保13年・14年 1842・1843年	40・41歳	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	来彦関連記録 重要文化財		
7	松下鶴図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦128.4cm 横57.5cm	天保13年5月 1842年	40歳	個人			
8	竹図	佐竹永海	2面	紙本銀地墨画	各 縦160.0cm 横88.5cm	江戸時代後期		彦根市	槻御殿襖絵		
9	鷺図	佐竹永海	1幅	紙本着色	縦141.8cm 横116.6cm	江戸時代後期		彦根城博物館 (井伊家伝来資料)			
10	群馬野遊図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦47.7cm 横123.7cm	江戸時代後期		彦根城博物館 (井伊家伝来資料)			
11	掛物記	井伊直亮	4冊のうち 1冊	紙本墨書	縦28.5cm 横18.0cm	江戸時代後期		彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	重要文化財		
12	屏風之覚	井伊直亮	1冊	紙本墨書	縦28.5cm 横18.0cm	江戸時代後期		彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	重要文化財		
13	佐竹永海書状(宮川柳古宛)	佐竹永海	1通	紙本墨書	縦16.1cm 横46.8cm	嘉永3年8月3日 1850年	48歳	個人 (彦根藩大久保家文書)	中元祝儀の件、痢痛の旨		
14	古田筑前守書状(覚成院宛)	古田筑前守	1通	紙本墨書	縦16.1cm 横47.3cm	未詳年6月4日 (安政2年頃)	53歳頃	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	永海の法橋補任の通知 重要文化財		
15	井伊直弼書状(上田成伴宛)	井伊直弼	1通	紙本墨書	縦17.1cm 横6.8cm	弘化3年4月17日 1846年	44歳	個人	北野寺院主へ永海筆富士図1枚を渡されたい		
16	金子請取覚	佐竹永海	1通	紙本墨書	縦16.4cm 横58.3cm	未詳年11月3日		彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	御板絵人足代金領収 重要文化財		
17	金子請取覚(上宛)	佐竹永海	1通	紙本墨書	縦16.0cm 横51.3cm	亥年4月28日		彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	絵具用の群青、緑青、朱、銀泥等の代金領収 重要文化財		
2 江戸市井での活躍 - 江戸の粋 -											
18	枝垂桜に短冊図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦96.3cm 横31.6cm	弘化4年か 1847年か	45歳か	個人 (喜楽コレクション)			
19	端午図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	縦126.3cm 横57.0cm	江戸時代後期 ～明治時代		個人 (喜楽コレクション)			
20	提醒紀談	編:山崎美成 画:佐竹永海	5冊	紙本木版	各 縦25.7cm 横17.5cm	嘉永3年10月刊 1850年		彦根城博物館 (井伊家伝来典籍)			

テーマ展「彦根藩御用絵師 佐竹永海－写山楼から愛雪楼へ－」 展示作品リスト

	名称	作者(差出)	数量	品質形状	法量(cm)	制作年代	年齢	所蔵者および寄贈者	備考	展示期間	
										～6/29	6/30～
3 多彩な画風 - 谷文晁「八宗兼学」の継承 -											
21	青緑山水図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦107.3cm 横37.4cm	江戸時代後期		彦根城博物館			
22	林和靖愛梅・陶淵明帰去来図	佐竹永海	2幅	絹本着色	各 縦105.8cm 横35.3cm	江戸時代後期		彦根城博物館			
23	三支図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦107.7cm 横44.1cm	江戸時代後期		彦根城博物館			
24	鯉図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	縦131.5cm 横60.0cm	江戸時代後期		個人			
25	林和靖図	佐竹永海	1幅	紙本着色	縦120.4cm 横61.7cm	江戸時代後期		個人			
26	雪中常磐図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦96.3cm 横33.1cm	万延元年 1860年	58歳	彦根城博物館			
27	秋野鹿図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	縦106.5cm 横33.0cm	江戸時代後期		彦根城博物館			
28	花卉図	佐竹永海	2幅	絹本着色	各 縦104.5cm 横38.1cm	江戸時代後期		個人			
29	松に猿図	佐竹永海	1幅	蘭地着色	縦31.2cm 横47.6cm	江戸時代後期		個人			
30	富士図	佐竹永海	1幅	絹本着色	縦45.8cm 横70.1cm	江戸時代後期～ 明治時代		彦根城博物館			
31	富士に雲龍図	佐竹永海	1枚	紙本墨画淡彩	辺14.8cm 上弦44.2cm	文久2年 1862年春	60歳	彦根城博物館 (青木巖氏寄贈)			
32	四季花鳥図	佐竹永海	6曲1双 のうち 1隻	紙本淡彩	各 縦120.7cm 横57.3cm	安政2年秋 1855年	53歳	彦根城博物館 (原多喜弥氏寄贈)			
33	西園雅集図	佐竹永海	6曲1双 のうち 1隻	紙本着色	各 縦156.1cm 横359.6cm	慶応元年11月 1865年	63歳	彦根城博物館			
34	李白観瀑図	佐竹永海	1幅	紙本墨画	縦116.7 横32.1	天保15年5月 1844年	42歳	個人			
35	鴨図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	縦123.8cm 横28.9cm	安政2～5年頃 1855～58年頃	53～56歳 頃	個人 (喜楽コレクション)			

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

2 井伊直亮画像 佐竹永海筆 1幅

絹本著色

縦92.6cm 横40.9cm

賛：嘉永4年(1851) 画：嘉永4年(1851)以前

彦根市指定文化財

清凉寺蔵

井伊家12代直亮(1794-1850)の肖像画。井伊家歴代の菩提寺である清凉寺に伝わります。理想化の要素はほとんどなく、眼光鋭く、繊細な内面までも表現し得た優品であり、身近に仕えた絵師の面目躍如たるものがあります。賛は、清凉寺住持仏洲仙英(1794-1864)筆。

***全期展示**



(部分)



(全図)

9 鷲図 佐竹永海筆 1幅

紙本著色

縦141.8cm 横116.6cm

江戸時代後期

当館蔵(井伊家伝来資料)

逆巻く波間の岩上の鷲。鷲は伝統的な狩野派風の画風で描かれています。柔らかみを帯びた岩の表現に、永海の師・谷文晁(1763-1840)の影響を見て取ることができます。本紙の大きさ、硬い紙質から、本来衝立として制作されたものを掛幅に仕立て直されたものとみられます。御殿を荘厳するにふさわしい力強い作品と言えるでしょう。

***前期(6/12~29)展示**



20 提醒紀談 山崎美成著 佐竹永海画 5冊

紙本木版

各縦25.7cm 横17.5cm

嘉永3年(1850)刊

当館蔵(井伊家伝来典籍)

江戸の随筆家の山崎美成(1796-1856)が、人の耳目を提醒せしむるような逸話等を編集した随筆集。写真は、日光輪王寺の伝統儀式である強飯式ごうはんしきの図。山伏姿の僧が、神の御供を粗末こくにしないよう袷姿の頂戴人ちやうだいじんに大盛の飯と菜とを強要しています。衝立の影の法螺貝を口にする人物は手



持ち無沙汰気にも見え、ユーモアを感じさせます。著者の美成と永海とは、親交があったことが確認されています。

永海は、本書を含めて少なくとも6種の版本の挿絵を手がけたことが判明しており、絵師として名が知られていた存在であったと考えられます。

*** 全期展示**

21 せいりよくさんすい ず 青緑山水図 佐竹永海筆 1幅

絹本著色

縦107.3cm 横37.4cm

江戸時代後期

当館蔵

青や緑を中心に、各種の顔料や金泥などを用いて描いた山水図を青緑山水（図）と言います。中国の盛唐期に完成したと言われ、日本では、江戸時代後期の関東画壇の雄、谷文晁たにぶんちやうが好んで手がけています。本作品は、文晁の弟子の永海うんが、師の影響下で描いたもので、近景に断崖に沿って歩みを進める人物、中景に雲烟えん、その奥に峻険な遠山をあらわしています。柔らかなタッチと色調とで暖かみを感じさせる1幅です。

*** 前期(6/12～29)展示**



25 りん な せい ず 林和靖図 佐竹永海筆 1幅

紙本著色

縦120.4cm 横61.7cm

江戸時代後期

個人蔵

梅と鶴をこよなく愛したという林和靖りん な せいの画。あくの強い人物表現に、中国・清代の画家、馬元欽ばげんきんの影響が色濃く見えます。永海自身、馬元欽筆「関羽周蔵の図」を愛蔵していたといえます。

本作は、嘉永3年(1850)12月5日、13代直弼なおすけの家督相続の内祝が行われ、出席した藩士のひとりが拝領しました。

*** 後期(6/30～7/14)展示**



28 ^{かきず}花卉図 佐竹永海筆 2幅 写真は右幅

絹本著色

各縦104.5cm 横38.1cm

江戸時代後期

個人蔵

^{たいこせき}太湖石に^{ぼたん}牡丹、^{たんぽぽ}菊、^{たんぽぽ}蒲公英の花卉と、^{とんぼ}蝶や蜻蛉などの昆虫類。鮮やかな色彩と陰影を意識した細かな描写に、18世紀に来日した中国・清の画家、^{しんなんびん}沈南蘋の流れを汲む南蘋派の強い影響が見られます。背景には金泥をはき、蜻蛉の羽には銀を用いるなど、入念に描かれた力作です。

*全期展示

